

海と山の森林づくり～循環する社会を目指した取組み～

機関名 寿都町役場

所 属 産業振興課

氏名 土開 直樹

1. 課題を取り上げた背景

寿都町は、渡島半島の付け根に位置し、全国でも有数の『風のまち』として知られており、町の78%を森林が占めるまちです。

また、『漁業のまち』として昔はニシン漁で栄えたまちで、江差追分の一節に「忍路、高島およびもないが、せめて歌棄、磯谷まで」と歌われ、非常に栄えたまちであります。

一方、寿都湾を取り囲む森林はたくさんのブナやミズナラが生茂っていたそうですが、ニシン漁が栄えたころに燃材として多くが伐採されたそうで、現に、急峻な沢沿いなどを歩くと今も立派なブナやミズナラが存在しています。

また、日本海側の漁村はどこも同じだと思いますが、磯焼けという悩みを抱えており、この磯焼け対策として植樹活動をはじめとする取組みを行ない、漁業者はもとより、町民や、町外から来町される方々から見ても自然環境と人材が上手く絡み合い循環する社会を構築し、魅力あるまちづくりの取組みについて紹介します。

2. 取組みの経過

① 海の森づくり

平成19年より、海の森を復元すべく植樹活動と平行して施肥事業を行い、翌春にはコンブの繁茂を確認しています。

② 山の森づくり

平成19年より、海の森を復元すべく、漁業者が中心となって植樹活動に取り組んでおり、現在までに植樹した木が約2,900本で、約1,800名が植樹祭に参加しています。

③ 人づくり

林野庁の補助金により、“こどもふれあいセンター(保育園)”を建設し、“木育”“海育”の普及啓発をしています。

3. 実行結果

① 海の森づくり

植樹活動はもとより、海に実際に施肥をするこの取組は、十分な効果が見受けられ、今後も植樹活動とともに継続して実施していくことで、より一層豊かな海になっていくことが期待される。

② 山の森づくり

平成19年から実施し参加者は漁業者が中心でしたが、今年度は、後志森林管理署・後志総合振興局、黒松内町、島牧村、毎日新聞社、国土緑化推進機構、南しりべし森林組合などのご協力をいただき、横浜国立大学名誉教授の宮脇氏を招いて宮脇方式による植樹祭を開催し、多数の町内外の方々の参加があり、植樹に対する意識の向上があった。

③ 人づくり

海の森づくりにせよ、山の森づくりにせよ、非常に長い期間をかけて実施していくもので、そのためには何よりも人の力が必要となるため、今後中心となっていくであろう人材として、若い漁業者に森づくりの大切さなどの講演会を開催するとともに、植樹指導者として中心で頑張ってもらっており、意識も今までになかった森づくりも漁業の一環として捕らえてもらえるようになってきている。

また、“こどもふれあいセンター”が完成したことにより、子ども達が木に触れる機会が増えたことで、木はもとより自然への関心が高まり、外で遊ぶ機会が増えた。

4. 考 察

平成19年から本町ではこのような取組を行なってきましたが、今まで中心となっていた方々の転出等により、それを続けていく“キーマン”がいなくなり活動が停滞した。しかしながら、活動を続けていく上で協力者や参加者全員が“キーマン(主役)”となることで活動に広がりも見せている。

また、現在、木に興味を持ち始めた子供たちへの“木育”を推進し魅力あるまちづくりを実践していきます。